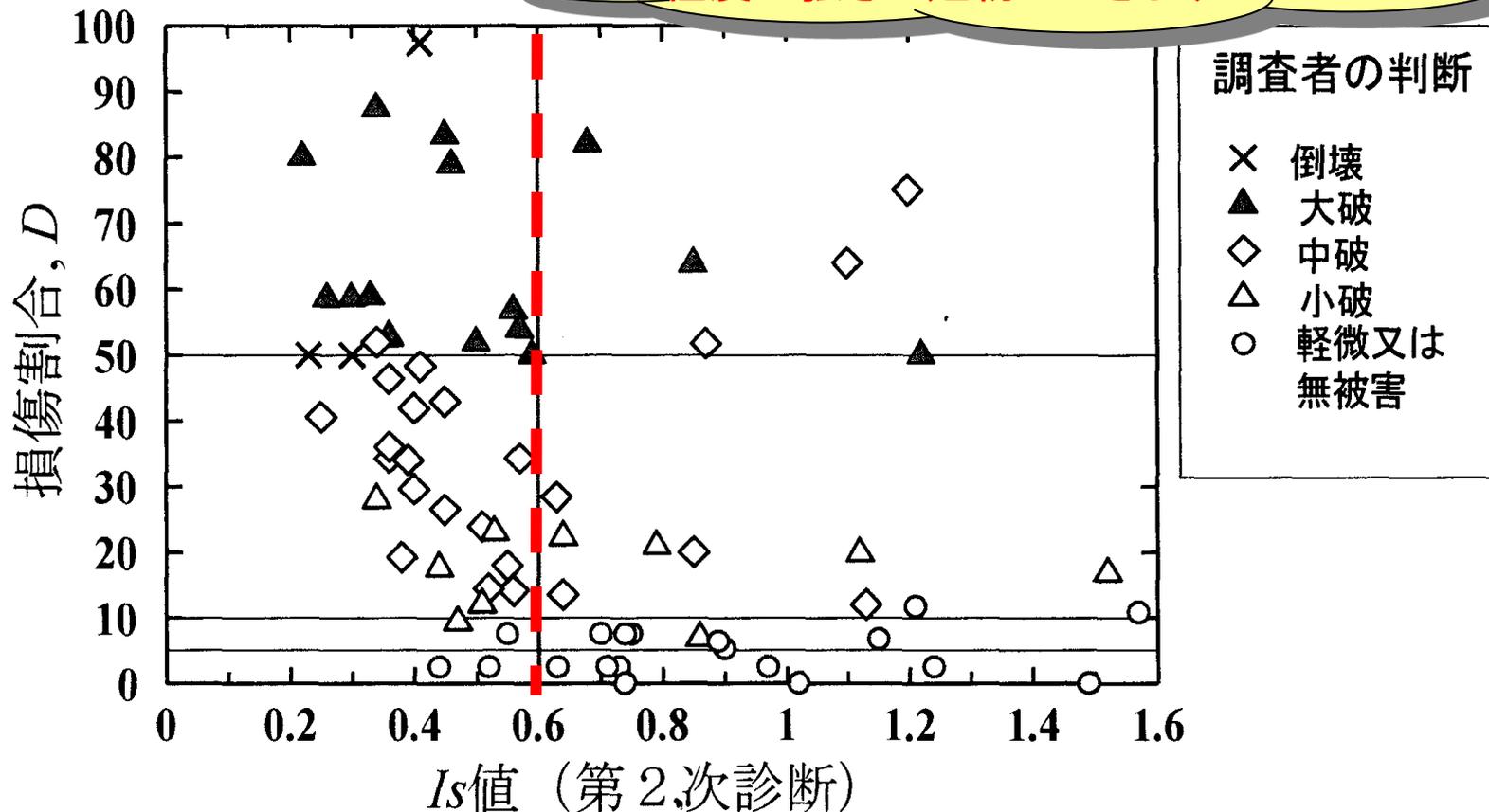


耐震判定基準と阪神・淡路大震災での被災例の関係

Is値と損傷割合の関係

耐震診断・補強により新耐震建物と同程度の強さの建物にできます



- ① Is値が0.4以下の建物の多くは倒壊or大破
- ② 0.4~0.6の建物では、小破以下の事例は少なく、大多数に中破以上の被害が生じており、倒壊・大破となる場合もあった
- ③ 0.6以上の建物では、被害は概ね小破以下にとどまった